

神のおとずれ

日本聖公会 神戸教区報



2020年
5月号

発行所
神戸教区事務所
TEL 078(351)5469
FAX 078(382)1095
<http://www.nskk-kobe.org/>

発行責任者
司祭 上原 信幸

印刷所
文明堂印刷所

神様はどいつに

司祭 ペテロ・パウロ 柳本 博人



この駄文がお手元に届く頃には、新型コロナウイルスの猛威が少しでも収まっていてくれることを切に祈ります。

自分の許容範囲を超えた苦しみや理解しがたい困難に出会って、私たちは、今、「神様はどこにおられるのだろうか」という疑問にぶつかっています。

この苦しみや困難は、「私たちの犯した罪の報い」なのでしょうか。それとも、「後から理解出来るようになる神様の深い計画の内の何か」や「私たちの知り得ない神様の意志」や「神様がこういう悲劇を通して、私たちに教えようとしておられる何か大切なこと」なのでしょう。

私たちには分からないことだらけです。

神様の意志・思い

この世界では、私にも、あなたにも、「災い」や「苦しみ」・「不幸」が降りかかるこ

とがあります。

でも、それは、神様の意志によるものではありません。

理不尽な出来事がしばしば起こり、多くの罪の無い、正しい人々が不運に見舞われて苦しんでいます。

けれども、それは、私たちの罪のせいではないし、後から神様の計画を知るためでも、決して知り得ない神様の意志の故でも、神様による教育のためでもありません。それは、神様の意志・思いが「愛」だからです。

神様の意志・思いである「愛」は、他者を肯定し、他者の意味を受け入れ、他者と共に生きることです。

ですから、私たちの存在を脅かし、意味を失わせるような、虚無と不安をもたらす困

難や苦しみ、不運や不幸は、神様から来るものではないのです。

私たちに襲い掛かっている新型コロナウイルスの脅威は、神様の意志とは全く別のものです。

神様は、私たちの味方です。困難や苦しみ、不運や不幸は、決して、神様の業ではありません。

だから、私たちは、苦しい時の神頼みをして良いのです。

「この災いの中に在って、辛いのです。苦しいのです。神様、助けてください！」と祈って良いのです。

言は肉となつて、わたしたちの間に宿られた

日々、耳に飛び込んで来る感染拡大のニュースと共に、この苦難の中に在って、他者を思い続ける方々のたくさん業が伝わって来ます。

身を挺して働いておられる医療従事者の方々のこと。自らの経済活動を犠牲にし

て、場所や物資を提供してもらえる方々のこと。

子どもたちのために遊び場所を提供し、マスクを配る菓子屋さんや、その活動の支援のために、入手困難なマスクを集める方々のこと。

神様は、何もして下さらない神様ではありません。

神様は、人を辛い目に合わせる出来事の中にはなく、苦しむ仲間を思い、苦しむ仲間のために祈り、仲間のために行動するあなたの中におられます。

仲間を思うあなたの中で、あなたの隣の誰かの中で、神様は、人を愛しておられます。

福音は、「誰かの中に、誰かの業の中に宿られる『愛』は、必ず、復活し、必ず、拡がる」という希望を伝えています。

この季節に在って、キリストのご復活の喜びを胸に、改めて、福音を生きることにチャレンジしたいと思えます。

(神戸聖三カエル教会牧師)

国内留学を終えて

昨年四月末から今年三月十日まで、国内留学として聖公会神学院で過ごさせて頂き、今は高知聖パウロ教会に赴任しています。

以前も書きましたが、神学院では日本聖公会の歴史を調べ、今後の宣教について考えていました。お伝えしたいことは多々ありますが、字数が限られているので、ここでは二つだけ、ご紹介したいと思います。

神戸ファンド

一九二五年に来神したバジル・シンプソン主教のために祈り、その働きを支援しようと、バジル主教が牧師をしていたマンスタースクエア聖マリア・マグダレン教会が中心となつて、神戸フェローシップという後援会が設立されました。そして、フェローシップの祈りと支援により、バジル主教は神戸教区の多くの教会や聖職を養い、育てました。

戦時下、外国人主教は次々と辞任しましたが、バジル主教だけが人意的な理由で退くことを固辞しました。しかし、その直後に癌が見つかり、アメリカで手術を受けましたが回復は思わしくなく、「満身創痍で主教職に留まると

教区の迷惑になる」として、一九四一年に辞任し、翌年逝去しました。

太平洋戦争により、日英は敵国同士となりました。しかし、フェローシップは戦時下で苦しんでいる日本聖公会のために祈り、戦後の必要を見越して基金を積み立てていたのです。それは戦争で多くのものを失うであろう神戸教区のために、バジル主教が亡くなる前にメンバーに訴えたことでした。

戦後、日本聖公会は戦時下に出した「海外に頼らない」という自給宣言を継続しました(実際は、一九七七年まで、海外から多額の財政支援を受けました)。そこで、バジル主教の右腕であったストロング司祭が「八代斌助主教が教会合同に屈しなかったのは、バジル主教が彼を英国に留学させていたことが大きい。直接援助ができるのなら、我々は神戸教区の留学支援をしよう」とフェローシップに提案したのでした。

今回、聖公会神学院の学費は神学院が負担してくださいましたが、生活費はこれまで先輩方が海外留学でお世話になったのと同じ、USPGが管理する「神戸ファンド」によって支えられました。私が東京に来たとき、教区

は神戸ファンドの詳しい由来について分かっていませんでした。分かっていたのは、正式名称が「神戸フェローシップ・ファンド」だということでした。今回、多くの宣教師の手紙の中から、先のことを記したバジル主教やストロング司祭の手紙を読んだとき、「このような経緯があったから、私は今、神学院で学ぶことができるのか」と知り、感動しました。



敵国となり、外国人主教を追い出した日本聖公会のために祈り、戦争中も基金を積み立てていたフェローシップの信仰。それはまさに「敵を愛せ」というイエス様の教えに他なりません。神戸フェローシップ・ファンドを通して、バジル主教をはじめとした英国人の神戸教区に対する愛と祈りは、今も生きて私たちに

注がれています。今回、歴史に学ぶことの大切さを再確認することができました。それを今後の牧会でも大切にしていきたいです。

気軽には行けない教会

もう一つ、この期間に経験し、皆さんにお伝えしたいことは、日曜日にいろいろな教会の礼拝に出席して気づいたことです。

まず、教会に行く際は、必ずホームページを見て、どのような教会かを調べて行きまじたい。つまり、ホームページがないと、すでに新来会者は大きな壁にぶつかるのです。新しい人に来てほしいと願うなら、ホームページを重要な設備の一つとして整備するべきだと感じました。特に、SNSで話題となつているプロテストント教会を訪れた際、そのことを痛感しました。

その教会の礼拝には、毎回四〇人くらいが出席していました(小さな聖堂で、四〇人ではほぼ満席)。礼拝や説教は他のプロテストント教会と大きく変わったところはありませぬ。そして、礼拝後に茶話会などではなく(週報にそのような記載はなく、誘われたこともありませぬ)、多くの人は礼拝が終わるとすぐに帰っていました。

私はその教会へ司祭である

ことを伝えずに通つたのですが、三度訪れて、行きのお付係と帰りに玄関に立っている牧師に一言挨拶する以外、一度も、誰からも話しかけられませぬでした。初めての教会で急接近されるのも戸惑いでしたが、このように全く話しかけられないと「私はこの教会に歓迎されていない」と感じました。

どの教会のホームページにも「気軽にお越しください」と書いてあります。しかし今回、無名の新来会者として訪れた多くの教会で、気軽に「また行こう」と思える教会は、ほとんどありませんでした。しかし、先の教会にはSNSにより、毎主日、新来会者が複数来ていました。よく「日本でキリスト教は難しい」と言われますが、こうして毎週新しい人が複数来ている小さな教会があるのですから、その認識は改めるべきでしょう。

日本にも福音を求めている人は大勢いる。ただ、私たちが言葉や行動を通して、かれらに福音を伝えることができているのだから、との認識を強く持ち、高知での宣教に励みたいと思っています。

司祭 中原康貴・
高知聖パウロ教会 牧師

オーガスチンのまなざし



主教 小林 尚明

間の日曜日(二十四日・昇天後主日)に特別なお祈りをすることにいたしました。原案は私が作りましたが、東北教区の吉田雅人主教様がきれいな祈りに整えてくださいました。

昇天後主日に各教会の礼拝の代祷の中で祈ると共に、皆さんもこの期間中、ご自身のお祈りに加えられたらと思います。

『天国が来ますように』の祈り

『The Kingdom come(天国が来ますように)』は、昇天日から聖霊降臨日にかけて行われる、世界的な祈りの運動に付けられたタイトルです。昨年十二月にこのコラムで紹介しました。今年の期間は、五月二十一日から五月三十一日まで。この十一日間、五名の友人知人がイエス様に出会い、信じていけます。

二月三日〜五日アングリカン・コミュニティのこの運動の担当者ボブ・キー司祭が日本聖公会の担当の私と打ち合わせの為に神戸に来られました。管区渉外主事のポール・トルハースト司祭を交えての打ち合わせです。私の方は、翻訳原稿を送って、自分の仕事を終わらせた、と思っていました。ところが彼が提案すること、この期間、何か特別なことを考えたかどうか、というのです。そこでこの期

『天国が来ますように』の祈り

イエス・キリストの父なる神よ、『天国が来ますように』の祈りに、わたしたち日本聖公会が参加できますことを感謝します。どうかこの時にあたり、わたしたちが祈ることを通して主イエスとの交わりを深め、主を力強く証しすることができるようになってください。またわたしたちの覚える五人の友を聖霊によって導き、この人々が主イエス・キリストに出会い、主を信じてください。主は父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられます。アーメン

各教会に、後日祈りのしおりが届くことと思っております。それを用いて、祈って参りましょう。

(神戸教区主教)

第八回 U26参加報告

二月二十二日〜二十四日、大阪信太山青少年野外活動センターで行われたU26全国集會に参加しました。このU26集會とは、日本聖公会の青年が集まり、年に一度、教区、教区を越えて、仲間を知り、刺激を与えながら、つながりを深めることを目的としています。私は今回が初参加であったため、緊張と全国の青年に会える期待を胸に会場へ向かいました。今回の集會では全国から約三〇人の青年が大阪に集まり、三日間を有意義に過ごしました。

初日は自己紹介、アイスブレイクを通して参加者、一人ひとりと関わる時間を持ち、分かち合いの時間では、「幸せとは？」についてグループで見出し合いました。自分の幸せ、みんなにとつての幸せとは何なのかをグループで考えをまとめ、その内容を全体でシェアしました。グループで考えが異なり、様々な視点から「幸せ」について考える時間となりました。

就寝前の祈りでは、テゼを用いて、今後の青年活動や、コロナウイルスの終息、そして青年が各自お祈りしたいことを、聖歌を歌いながら、神様にお届けし、一日目のプログラムが無事終了しました。二日目はティベト大会が行われ、議題について熱い討論が青年同士で行われました。身近にある社会的な問題

や教会生活などを議題として、各班頭を抱えながらもアイデアを出し合い、賛成か反対かを数々の観点から意見をぶつけ、白熱したティベトとなりました。二日目になると参加者も打ち解け合い、レクリエーションの時間では、体を動かして、大いに盛り上がりました。夕食後のキャンプファイヤーでは、ゲームや聖歌を歌い、最後に二人一組に分かれ、相手が抱える悩みや不安を聞き、お互いのために祈り合う時間を持ちました。



最終日は、今回のU26集會のテーマである「Start on ones own(自分から始める)」についてグループに分かれて話し合いを行いました。

大学を卒業し、大阪で働き始めた私にとって、かなり印象的なテーマでした。大阪での生活は、以前まで生活していた広島とは異なり、通っていた教会を離れ、新しい友人もいない中で慣れない生活を過ごしていたときに、U26の

参加募集に書かれていたテーマを読みました。環境が変わり、自分から新しいことを始めることが多かった年であったため、今回のテーマと自分の置かれた立場に何か繋がりを感じ、今回の集會に参加してみようと思いました。テーマに対する自分の考えを伝え、グループのメンバーも、普段の学生生活、仕事、教会を通して自分から何かを始める難しさ、楽しさを過去の経験や現在の状況から感じる思いを共有し、最後の分かち合いの時間となりました。そして閉會式を持って、全プログラムが終了し、今回のU26集會は無事終わりました。

教会の若者離れが深刻化している中、このような集會で仲間の存在を再認識し、今後の聖公会を担う青年の一人として青年同士、力を合わせ、今まで以上に教会に奉仕できたらと思いました。今年の九月には、四年に一度行われる全国青年大会が開催される予定です(後日、無期延期が決定しました)。共に学び、祈る、そんな貴重な時間を青年達と過ごせることを楽しみにしています。

最後に、このような集會を準備してくれた運営チーム、そして全国の青年に出会うキッカケを与えてくださった神様に感謝し、青年としての教会生活を大切に過ごそうと思

小林 和真・神戸聖三力工ル教会信徒

鳩だより 《敬称略》

ご逝去

三月二日(月)

ベテロ金田 昭五郎
神戸聖ミカエル教会

三月十一日(水)

アンデレ島村 直樹
東北教区

三月八日(日)

ルカ 西條 史朗
徳島インマヌエル教会

小名浜聖テモテ教会より

徳島インマヌエル教会へ

三月九日(月)

ヨハンナ 三宅 貴美
明石聖マリア・
マグダレン教会

三月十九日(木)

グレウス 中原 良美
ヨシユア 中原 祥宏
ブリジット 中原 妙子
クリステイーナ 中 原 みゆき

教籍移動

二月二十九日(土)

クララ 浜口 秀子
明石聖マリア・
マグダレン教会より
神戸聖ミカエル教会へ

三月二十一日(土)

ニコラス 高塚 裕一
東京教区
聖マーガレット教会より
米子聖ニコラス教会へ

三月一日(日)

マーガレット 瀬山 みちる
神戸聖ミカエル教会より
浜田基督教会へ
ヨハンナ 鈴木 玲子
ニコラス 鈴木 厚士
神戸聖ミカエル教会より
大阪教区大阪聖パウロ教会へ

三月二十五日(水)

ソフィー 縫 真由子
倉敷聖クリストファー教会より
松山聖アンデレ教会へ

諸行事中止のお知らせ

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、左記の行事が中止となりました。
○教区婦人会大会

ランベス会議

この夏に予定されていましたが「ランベス会議」が来年に延期されました。皆様へは、「ランベス募金(六月末締め切り)」をお願いしておりますが、常置委員会で協議の結果、締切りを今年十二月末まで延長することとしました。既にお送りいただいた募金は、今年末まで大切に預かり致します。
引き続き、募金のご協力をよろしくお願い致します。

6月の教区関係教役者逝去記念聖餐式

日時 2020年6月11日(木) 午前10:30
場所 神戸聖ミカエル大聖堂
司式 主教 小林 尚明
説教 執事 永野 拓也

※中止の場合がございます。恐れ入りますが、ご出席される方は、事前に教区事務所までお問合せ下さい。よろしくお願い致します。
教区事務所 TEL.078-351-5469

* 6月の記念逝去教役者

8日	司祭	チャールズ	ワレン
13日	司祭	ダニエル	植村信久
13日	司祭	ヘンリー	ピート
13日	伝道師	マリア	鈴木嵯峨
19日	伝道師	ヨハネ	伊木久次郎
19日	司祭	ダビデ	横田豊
20日	司祭		牧岡鉄弥
20日	司祭	トマス	角瀬史和
20日	主教	テトス	中道淑夫
21日	司祭	ミカエル	津留孝夫
22日	司祭	施洗者ヨハネ	佐々木崇
23日	司祭	マタイ	覚前信三
29日	主教		横田道信

新型コロナウイルス被害のための祈り(改訂版)

世にある人、世を去った人の主なる神よ、新型コロナウイルスによって命を失った人々のために祈ります。どうか彼らがすべての重荷から解放され、あなたの御手の中で安らかに憩うことができますように。家族を失った人々に主の慰めが与えられますようにお願いいたします。またこの感染症によって苦しみ、不安の中にある人々を覚えて祈ります。どうか恵みによって、その体と心を強め病に打ち勝たせてください。治療に当たっている医療従事者の方々を覚えて祈ります。どうか彼らに力を与え、守り、助けてくださいますように。そして、感染拡大が止まり、治療方法が一日も早く見つかりますように。主イエス・キリストによってお願いいたします。

神戸教区主教オーガスチン 小林尚明

アーメン